

白石島 8月11日(金)～17日(木) 9:00～17:00 (最終日は15:00まで)

六島 8月11日(金) 9:00～17:00



移居宿舎「しらゆり」 場所：倉庫北の「通しるべの家」
島に自生する真鍮板を用いた家の記憶「白石涌へのオマージュ」(2016年作品)

白い花園が点在する白石島には、運平合戦の死者の霊を慰めたことが始まりとされる白石涌が八月十二日、十六日の盆の行事として受け継がれています。弘法山開成寺にはタイの名刹ワットパクナム寺院との交流により建立された仏舎利塔があります。江戸時代には沿岸航路の中継地として、農業のみならず織や染を振った特産品の製造も行われていました。港の正面の伊能忠敬も泊った記録が残る「松浦邸」を始め、大師道に沿うまうにお借りした家々に作品を展示していきます。

杉本 克敬 SUGIMOTO Katsubiro
1978年、岡山県生まれ。2007年「カフェ」は日常の文化施設」をコンセプトにEXCAFEをオープン、パスタとして日々カウンターに立つ。アートの場では「食」を通じて訪れる人々の「口を開ける」きっかけを作り、そこで生まれる「対話」から暮らしや文化、記憶などを手繰り寄せる。

「スープとこれから」 場所：松浦邸
島に住む人や訪れる人に、それぞれの暮らしに関わりのある「スープ」を教えていただき、一緒に作りながら自覚で提供します。スープが繋ぐそれぞれの日常や感情のこれからを分かち合います。特産の菜を使ったスイーツやドリンク、コーヒーなどを用意します。

CAFE OPEN 夜一部有料
11日 9～17時
白石島の家庭料理「びょうたり」の振る舞い
12日 9～19時
15日 9～17時
16日 9～17時
17日 9～14時

岩本 象一 IWAMOTO Shoichi
主に叩いて演奏できるモノを奏する音楽家。1981年生まれ 神戸出身。インドネシア留学を経て2010年より岡山在住。ジャズやクラシックを併置し各地でワークショップを行う一方様々なグループに参加し演奏活動をしている。音で情景を描く音の詩人でありたいと思っている。音を媒体として人と場を繋ぐことを目指している。

「交差する響きと物語」 場所：松浦邸 8月12日(土) 19:00～20:00
ジャズ伝統等ジャンルと白石の女性達による大正琴とのセッションを試みます。また子ども達と島にある素材で楽器製作し音楽づくりをします。そしてそれらの音楽を用い、アラブ民話ベースにしたワケナシ(ジャズ影絵人形芝居)を上演します。
※観覧ご希望の際の船の便については、予めお問い合わせください。

松村 晃泰 MATSUMURA Teruyasu
1974年、京都府生まれ。大阪芸術大学大学院修了。石影・雪組を中心に彫刻家として活動。学生時代、岡山市大島に基へ2か月滞在し、共同制作でモニュメントを制作・設置。以来、岡山との縁が絶えず、2015年、京都市から岡山市に移住、2016年、英作町で「ザ・みぎりズム2016」を企画・開催。

「時の足跡・未来の手」 場所：白石島の民家の塙に点在
白石島の歴史とともに歩んでこられた方、今そしてこれから歩いていく方、島に関わる人々の足跡と、未来を担う手を島内の御影石に刻みます。「石の散策マップ」を松浦邸に置いてありますので、お手に取って島を歩いてください。

松岡 美江 MATSUOKA Mie
1985年香川県生まれ。家政学部卒業後、Central Saint Martinsで学び、中国圏を中心に、地域系アートプロジェクト等参加。壁のない日常の延長線上に芸術はあると考え、人と衣食住との関わり合いや土地に根付く産業への新しい価値の構築など、日本の素材を使用した地域と人をつなぐ活動を行っている。芸術系、高松市産が主でアートリンク事業に参加している。

「空いた時間」 場所：松浦邸
編物の歴史は古く、場所や時間、年齢を越え、少ない道具で一本の糸から様々な形へと構築されます。新しい担い手とともに、島にある素材を使い、止まった期を編み上げます。

ラデック プレディギエル Radek Predygiel
1973年ポーランドに生まれる。1998年ワルシャワ国立芸術大学卒業。3年間同大学アシスタントとして勤務。2004年日本に移住。前衛演劇、白石島、吹越、見島、美作などのアートイベントに参加。ポーランドの小説、パリ、ブダペスト、平野ホタルリマニでフェスコ画を制作。ポーランド、フランス、ドイツ、日本で映画やアートプロジェクトに参加している。(白石島越境シャッター「道新年報」水鏡、浦坂、テラスなど、朝明はフランス画)

「パラダイスの島」 場所：白石公民館前消防機庫壁画 公開制作
子どもや島の人たちと一緒に島の風景・白石涌をモチーフに描く

濱田 公望 HAMADA Kouhou
1980年高知県出身。在任。映像作家。近年では地域と密着したアートイベントへの参加、企画・運営の他、トヨタ子どもとアーティストの出会いや高知県立美術館が主催する子ども向け映像ワークショップに講師として携わるなど、周縁地域におけるクリエイティブの積極性をテーマにした活動を行っている。

「綿の意思」 場所：映像の家 屋号「東」(イイダサ)
白石島の自然や人を撮影した映像によるビデオインスタレーション

清水 直人 SHIMIZU Naoto
1980年生まれ、岡山県在住。共通感覚の「比喩」のうちには二つの意味があります。一つは、社会のなかで人々が共通に、まっとうな判断力(感覚)というらえ方のなかでの「社会的共通性」。もう一つは、諸感覚(感覚)に担わった共通で、しかもそれらを統合する根源的感覚です。対象的な認識によって捉えるのではなく、関与することにより、またはこの共通感覚をたはからせることにより、作品を通して社会と人間のアクチュアリー、時代性を問いたいと考えています。

「河田邸2017～玄関ドーム～」 場所：河田邸
5月末、河田邸の玄関部分のスペースに、ヘチマとひょうたんの種を植える。現在、ひょうたんは順調に育っているようです。水やりでは皆さんにお世話になっています。ヘチマとひょうたんの頭上には、竹によって覆われたドーム状の造形物を制作設置。造形物に鳥が飛び、緑のドームが生まれる予定です。



岡山県最南端の六島、島に自生する水仙が咲く早春は、可憐な花の香りに包まれます。六島の歴史を築き、島に関わる人々の足跡と、未来を担う手を島内の御影石に刻みます。「石の散策マップ」を松浦邸に置いてありますので、お手に取って島を歩いてください。

金子 雄生 KANEKO Yusei
19代からジャズトランペット奏者として多くのセッションバンドに参加。35年民間音楽から入っている影響を受け、リーダーバンド「FUNKY FUNK」を結成。「NEW JAZZ AGE」として活躍の場を拓く。手製の楽器の製作も開始する。現在、フリージャズユニット「方角House」有機的音楽ユニット「マックスブルー」主催、ソロパフォーマンス2017「観」(高)開催中。また、いろいろな素材を使った楽器作りのワークショップも好評。

「WE LOVE」 場所：島小屋 1回公演 / 10:00～ 2回公演 / 10:30～

米山 力 YONEYAMA Chikara
1975年東京都生まれ横浜在住大阪府立大学工学部情報工学科卒(特) 虎舞ミュージアム代表フォトグラフラー六島写真館館長兼兼店の撮影と画像写真を中心に活動時間と写真について考える日々。

「六島の写真館」 場所：港江港前ひがし

三友 周太 MITOMO Syuta
1967年 Bronx NY USA 生。1991年 東京薬科大学薬学部卒業 薬剤師。医薬品業界で新薬の開発に携わる傍ら、美術家として人と人が繋がることをテーマにした作品の活動を行う。美術家としてはライフサイエンスを学んだ経験を生かした科学的視点や、光や影を使ったインスタレーションやカメラの原理を用いた表現を行う。

「六島光器製作所」 場所：教員宿舎

